

島のおすそわけ

～浦戸でがんばる母ちゃんたちが心をこめて作ります～

合同会社ががんばる浦戸の母ちゃん会
内海 由美子

1 地域の概況

私たちが住んでいる塩竈市浦戸諸島は、桂島・野々島・寒風沢（さぶさわ）島・朴（ほお）島の4つの有人島と200を超える無人島から成り、日本三景「松島」の一部を構成する島嶼群で、東北の玄関口、仙台から仙石線と塩竈市営汽船を乗り継ぎ約1時間のところに位置する。4島5地区の人口は、合計で335人である。

浦戸諸島には、松島を彩る風光明媚な島々の景観や、歴史探訪スポット、この地方では珍しいタブの森など、豊かな自然が残されている。これら観光スポットについては、塩竈市による精力的な観光振興（島歩きマップの製作等）が進められており、近年は観光客が増加している。



図1 浦戸諸島の位置図

2 漁業の概要

浦戸諸島には、宮城県漁業協同組合の塩竈市浦戸支所（桂島）と塩竈市浦戸東部支所（寒風沢島）の2支所が設置されている。

両支所を合わせた組合員数は156人で、ノリやカキの養殖業、刺し網等の沿岸漁船漁業を中心に、アワビやアサリ、ギバサ（アカモク）等の採介藻漁業が行われるほか、春にはシラウオ漁が風物詩となるなど水産資源の豊かな地区である。両支所平成29年度の水揚げ額は約4億2,000万円程度である。

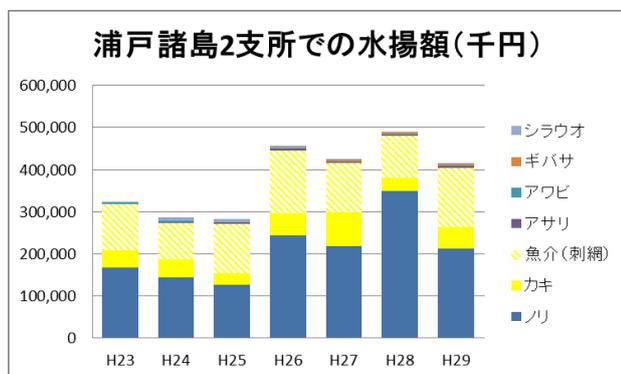


図2 浦戸諸島における年間の水揚げ額

3 研究グループの組織と運営

「合同会社ががんばる浦戸の母ちゃん会」は、平成 28 年 7 月に宮城県漁業協同組合塩釜市浦戸支所及び塩釜市浦戸東部支所の女性たち 33 人が出資して設立された。主な活動は、日本財団の支援を受けて建設された浦戸支所に併設する「番屋」において、浦戸諸島で生産される海産物や農産物を用いた加工品やお弁当、オードブル作りで、それらの収益等で組織を運営している。

現在、約 10 人が製造や販売を担っており、他のメンバーは原材料調達とイベント等の際のバックアップを行っている。当社は設立して日の浅い会社ではあるが、メンバーは気心が知れている「地元の母ちゃんたち」で、月に一度程度集まってはお茶飲みをしながら取り組みの相談を行っている。

4 研究・実践活動取組課題選定の動機

東日本震災以前、浦戸諸島ではノリやカキ養殖等が盛んに行われていたが、震災により養殖施設や作業場、住居までもが流失した。

震災以前、私たちは、支所ごとに漁協女性部として活動を行っていたが、震災後に復興支援等で浦戸諸島を訪れる方々との交流を通して「浦戸の美味しい食材をたくさんの方々に“おすそわけ”して知っていたら、浦戸諸島に人を呼び込んで浜と島に活気を取り戻したい」という思いが生まれ、漁協から自立した合同会社という形で関係者の協力を得ながら取り組みを開始した。



写真 1 震災直後の浦戸諸島

5 研究・実践活動状況及び成果

(1) 水産加工品の開発について

設立当初は、「島のおすそわけ」というコンセプトから、地域の主力生産物であるノリやカキを使用した加工品づくりに取り組んだ。原材料は社員の家族や支所を通じて最良のものを安定的に確保しながら、地元の人たちが食べて「美味しい」と言ってもらえる加工品だけを商品化した。

焼き海苔や味付け海苔については初摘みであり、味と香りのよいものにこだわり、海苔の佃煮については添加物を極力使用せず、海苔本来の風味が伝わる加工品づくりを行っている。

カキについては、当初佃煮の缶詰加工を考え試行錯誤したが、見た目・美味しさともに納得できるものには至らなかった。しかし、同時進行で開発していたカキ佃煮の真空パックは、私たちや地元の人にも納得のいく仕上がりになったため、現在、商品化されている。



写真 2 水産加工品広告



写真 3 お弁当等広告

(2) お弁当・オードブルについて

現在、桂島には食事処がないため、当社ではお弁当やオードブルの受注生産・販売を行っている。お弁当やオードブルには、浦戸諸島で獲れる季節ごとの海産物や農産物を可能な限り使用しており、その美味しさと見た目の美しさが評判を呼んで、浦戸諸島内での会合や島外から訪れる団体客、島内外でのイベント等に幅広く活用されている。

(3) 販売促進活動について

販売促進活動の中心は、各地のイベントに出店することで、対面での販売にこだわっている。これまでにも一緒に取り組みをしていた「一般社団法人 e-front」とともに多数のイベントで、焼き海苔や味付け海苔、ノリやカキの佃煮の他、カキやアナゴご飯等を中心に浦戸諸島の美味しさを多くの人に“おすそわけ”することができた。このような機会での出会いが、当社商品の好評につながり翌年のイベントにも声が掛かるようになった。

月	イベント名	出店場所
5月	春の門前市	塩竈市
	夢メッセ(復興ブース)	仙台市
8月	桂島夏祭り	塩竈市桂島
9月	GAMAROCK	塩竈市
10月	秋の門前市	塩竈市
	山形市東部公民館 文化祭	山形県山形市
	塩竈市魚市場開放まつり	塩竈市
	塩竈市婦人会チャリティーバザー	塩竈市
11月	アイランダー	東京池袋サンシャイン
3月	クラブツーリズムツアー受入	塩竈市桂島

表 1 イベントへの出展(平成 29 年度)

取り組み 2 期目に最も多くの“おすそわけ”ができたのは、旅行会社のクラブツーリズムが企画した「塩釜・冬の七夕&カキ祭り」で、10 日間で約 300 人の観光客が桂島を訪れた。販売店を持たない当社は、塩竈市営汽船の待合室を借りて加工品や地元の水揚げされる海産物を販売したところ、非常に好評で、大きな売り上げにつながった。

その他にも、贈答用の加工品詰め合わせも試験的に始めており、売り上げの向上を期待している。

家業の養殖業との兼業であるため、販売促進活動は想像した以上に大変であったが、当社の取り組みの認知度も増し、最近では観光地「松島」のお土産屋さんにも当社加工品を置いてもらえるようになるなど、2期目の加工品の売上金額は1期目の約3倍に伸びている。



写真4
アナゴご飯等



写真5
出店状況



写真6
贈答用の加工品詰め合わせ

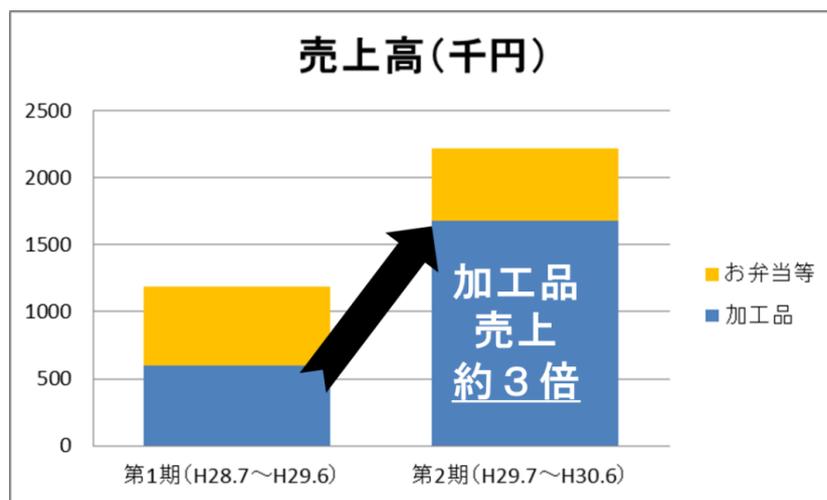


図3 加工品とお弁当等の売上高

6 波及効果

当社の取り組みも3年目を迎え、新聞等のメディアにも紹介されるようになり、当社加工品を応援して下さる方が一括購入し、ネット通販を活用しての販売も行われている。

また、平成30年9月に「うみ・ひと・くらしシンポジウム2018in塩竈」が開

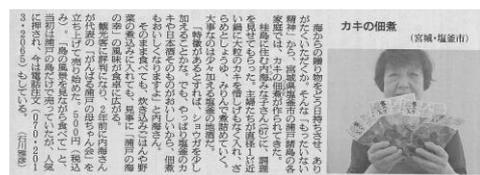


写真7 朝日新聞記事

催された際には、全国の漁村女性等約 100 人が集まる中、当社加工品を試供したほか、平成 30 年 11 月に塩竈市の協議会が開催した、収穫の恵みを市民とともに分かち合う恒例行事「第 37 回収穫まつり」にも出品へ声が掛かる等、取り組みの幅も広がっている。

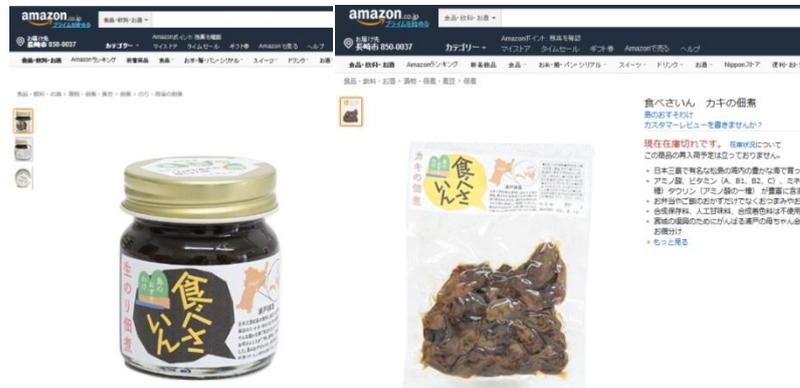


写真 8 ネット通販での販売

7 今後の課題と展開

自立した活動を継続していくためには、事業収益を黒字化することが必要である。1 期目（平成 28.7～平成 29.6）の売上高は 120 万円程度であったが、売上原価や販管費等を合計すると赤字決算となった。2 期目（平成 29.7～平成 30.6）は売上高（220 万円程度）が倍増しており、50 万円程度の黒字であった。しかし、現状では人件費を見込んでいないため、今後は相応な人件費を経費に含めたうえで黒字となる事業計画を策定することが必要と考えている。

このことから、平成 30 年度から「県の専門家派遣事業」の活用を開始し、他社類似商品との差別化を図るために統一したロゴやパッケージデザインの見直し、自社ホームページの作成を行っている。また、現在加工品を販売している松島町内のお店から、お土産用の佃煮だけではなく、「おつまみ用」の少量パック商品の開発要望があり、少量化することによる販売量の拡大と利益の向上を期待して商品開発を進めている。

今後は、より幅広く地域食材を PR するために、お弁当の受注・販売だけではなく、桂島には食事処やお土産販売所の整備が必要と考えている。当社単独の運営は現実的に難しいと思われるが、行政や漁協等の関係者と協働して、島内に地域食材等を PR できる場をつくれぬか検討を行っていきたいと考えている。

私たちの取り組みは、養殖繁忙期以外の時期が中心で大々的な取り組みはできないが、この小さな島々の美味しい食材を使って、母ちゃんたちが心をこめて作ったものを“おすそわけ”するこの取り組みを幅広く知って

もらい、浦戸諸島に観光客等呼び込むことで、地域の活性化に貢献したいと考えている。

